



◆図書館だより◆平成21年(2009年)6月17日 No.217

# なんだりかんだり



\*NANDARI-KANDARI\* means \*Anything\*. In other words we call it \*森羅万象\*.

日本大学第二学園図書館

**/お互いにルールを守り、気持ちの良い館内利用を! /**

◎はじめに

6月は「水の月」とも言われています。自然界で生きとし生けるものにとって、水はとても貴重な財産です。梅雨が明けるまで、しばらく雨と上手にお付き合いしましょう。空はどんより曇っていても、足元には色とりどりの紫陽花たちが、私たちの心を明るく元気に癒してくれています。外に出られない日は、楽しみな夏休みの計画を今のうちから考えておくのも良いでしょう。また、窓越しに木の葉をゆらす雨筋を時折見ながらの読書など、優雅で素敵ですよ。気温や湿度が高かったり、低かったりと変化が著しいですが、体調管理には十分気をつけて、毎日さわやかに過ごしましょう。

下校する生徒に今日の走り梅雨 [ 齡歩 ]

みなも あゆ  
水面揺れ香魚手に引きし朝まずめ [ 耕 ]

## 🐘 そうさんの独り言 🐘

このところ、さわやかな出来事を見聞きしましたので、皆さんにもご披露いたします。ある朝、環境整備の方が、中一の女子生徒から「いつもきれいにさせていただいて、ありがとうございます。」と声を掛けられたそうです。また別の日には、落し物のお財布を中学部の受付に届け出ておいたところ、中学生(学年は不明)と先生と一緒にお礼を伝えるために、整備員室に来られたそうです。また高校体育大会が終わったある朝、野球部の生徒たちが、銀杏並木の掃き掃除を一生懸命にしていました。いずれも当たり前のことと思われがちですが、誰に言われる訳でなく、素直な気持ちを言葉で表したり、自発的な行動が取れるということは、とても素敵なことだと思います。当たり前のことが当たり前に出来る。とてもうれしく思いました。

## 生誕100年の作家たち

1909年生まれ作家、太宰治、松本清張、大岡昇平、中島敦、埴谷雄高らは、今年生誕100年を迎えました。これを記念して、特集コーナーを設置している書店もあります。作品が映画化、ドラマ化にもなり、太宰治の小説『斜陽』『ヴィヨンの妻』『パンドラの匣』『人間失格』も映画化が決定しています。記念すべき年に、日本を代表する作家の作品を、もう一度読み返してみるのはいかがでしょうか。



### 太宰治

青森県北津軽郡金木村に生まれる。代表作は『走れメロス』(1940)、『斜陽』(1947)、『人間失格』(1948)など。1948年、玉川上水に入水。



### 松本清張

福岡県企救郡板櫃村に生まれる。代表作は『ある『小倉日記』伝』(1952)、『点と線』(1957)、『砂の器』(1960)など。



### 大岡昇平

東京都牛込区(現・東京都新宿区)に生まれる。代表作は『俘虜記』(1948)、『野火』(1948)など。



### 中島敦

東京都四谷市(現・東京都新宿区)に生まれる。代表作は『山月記』(1942)、『文字禍』(1942)など



### 埴谷雄高

台湾新竹庁(現・新竹州)生まれ。代表作は、『死霊』(1946~未完)



## お知らせ



第1学期期末試験を控え、6月24日(水)から7月8日(水)の間(日曜日は除く)、通常の閉館時刻を延長し、午後6時までの開館とします。自学自習のため、大いに利用してください。ただし中学1年生は、午後5時下校となります。なお、期間中は大勢の生徒が利用しますので、持ち物にはクラス・名前を記入し、また、貴重品の管理も各自でしっかり行なって下さい。カウンターに預けることもできます。他の人の迷惑にならないよう、静かに利用しましょう。